

[1つ戻る](#) [トップへ戻る](#)

スクエアダンスが 毎日新聞にて紹介されました

2008年5月 日本スクエアダンス協会出版広報委員会

5月10日付けの毎日新聞に以下のスクエアダンスを紹介する記事が掲載されました。



スクエアダンスを

やってみてみたい。

■西部開拓の雰囲気

アメリカで西部開拓時代に生まれ、日本では戦後に進駐軍から広まったといわれるスクエアダンス。男女2人の「カプル」4組8人が向かい合って立ち、四角をつくる基本の形から「ス



鈴木孝子さん

クエア（四角）」と名付けられた。難しいステップを覚える必要もなく、中高年を中心に人気広がっているという。

日本スクエアダンス協会（東京都千代田区）の鈴木孝子理事（58）が指導するクラブ「ドリームファンタジア」の例会をのぞいてみた。毎

週火曜午後1時から横浜市青葉スポーツセンターで開催、約50人が参加する。ドアを開けると、テンポ

のいい音楽が響く。すそが広がったカラフルな衣装を着た女性や、ウエスタンシヤツ姿の男性たちが手をつないで楽しげに踊っている。西部開拓時代の雰囲気を色濃く残すダンスだけ



ウエスタン調のコスチュームも楽しみのひとつ

コールに合わせて、さまざま動きを楽しむ
■横浜市青葉区で

を握って反時計回りに回る「プラマネイド」■図参照
■やカプルが互いの右腰を接近させて回る「スینگ」

単なベーシックでも53種類に上る。スクエアダンスを始める人はコールを覚えることがすべての始まりだ。ダンスの順番はコールを出す「コーラー」が組み立てるため、次にとのコールが来るのかダンサーには分からない。コールに応じて

難しいステップなし

に、音楽も基本はカントリーウエスタン。最近はおブスを使うこともある。

鈴木さんはマイクを手にダンサーたちの前に立ち、音楽に合わせて「コール」

と呼ばれる英語の指示を出す。例えば、カプルが両手

■同、8人全員で手をつないで輪をつくり、左（右）に回る「サークル・レフト（ライト）」などだ。

■基本コールは53種類

コールは難易度から大きく5段階に分かれ、最も簡

毎回違うダンスが踊れる楽しさがある一方、瞬時に反応して動かなければいけないため、踊っているときの顔はみな真剣そのものだ。

「ここに来ているときは日常のことを忘れて楽しめ。誰でも『ポニー』と『ガー

ル』になれるんです」と話す鈴木さん。コーラーを始めて15年以上。よく通る声とリズムカルなコールは人気が高く、全国各地から招待を受けるほどだ。点数を競うものではないので競技会などはないが、鈴木さんのような人気コーラーを呼んでパーティーを開くこともある。

【小林多美子、写真も】

中高年層に人気

スクエアダンスは小学生からお年寄りまで幅広い年齢層が楽しんでいるが、中心は主婦や定年退職後の男性らで60歳以上の愛好者。女性が8割を占めるといふ。

「日本スクエアダンス協会」（☎03・6240・6560）に登録されているクラブは約450。北海道、東北、関東甲信越、中部、近畿、西日本の6地区に支部がある。80年の創立時には約2200人だった会員も、現在は約1万4000人に増えている。ほとんどのクラブでは春か秋に新人を募集し、半年間でベーシックを習得する。衣装はウエスタン調で、女性は手作りが多い。

男女の「カブル」の基本的な立ち方 **ブラマネイド**



男性が左、女性が右に立ち、女性の左手を男性の右手にのせるように手を握る



カブルで反時計まわりにまわる

スイング



男性の右手は女性の背中、女性の左手は男性の右肩に置き、お互いの右腰を接近させてまわる

※この記事は[毎日新聞のWebサイト](#)にも記載されております。

[1つ戻る](#) [トップへ戻る](#)